

## 文部科学省物品・役務等契約監視委員会（第14回）議事概要

開催日及び場所	平成23年3月11日（金） 文部科学省 会計課会議室	
出席委員 (敬称略)	○委員長 有川 博（日本大学 総合科学研究所 教授）  ○委員 清水 幹裕（弁護士） 田辺 孝二委員 （東京工業大学大学院イノベーションマネジメント研究科長） 松浦 亨 委員 （北海道大学病院 病院長補佐（病院経営・情報管理担当）、臨床教授） 和田 義博委員（公認会計士）	
審議対象期間	平成22年10月1日～平成22年12月31日	
個別審査案件	3件	○議 事 （1）平成22年度第3四半期の物品・役務等契約に係る審査 （2）その他
一般競争入札方式	2件	
最低価格方式	0件	
総合評価方式	2件	
指名競争入札方式	0件	
最低価格方式	0件	
総合評価方式	0件	
随意契約方式	1件	
企画競争	1件	
公 募	0件	
競争性のない随意契約	0件	
不落随意契約	0件	
事前審査案件	0件	
委員からの意見・質問、 それに対する回答等	別紙のとおり	
委員会による意見の内容	個別に検討を要するものはあるが、全体として特に問題なく処理されている。	

質 問 ・ 意 見	回 答
<p>平成22年度第3四半期の物品・役務等契約に係る審査について（以下、審査順）</p> <p>① 「学校支援地域本部事業」等の事業効果の把握に向けた調査研究【一般競争入札（総合評価落札方式）】（生涯学習政策局）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 1者応札となった要因は何か。入札等の実施時期が遅かったことが要因ではないか。</li> <li>・ 入札説明会には落札者を含め5者参加しているが、他の4者はどのような業態の者か。また、応札しなかった理由は把握しているか。</li> </ul> <p>② 高等学校施設整備の事例集作成に関する調査研究【一般競争入札（総合評価落札方式）】（文教施設企画部）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 他者でも実施可能と思われるが、1者応札となった要因は何か。</li> <li>・ 技術審査員のうち1名が必須の要件を満たしていないと判定しているにもかかわらず、契約に至った理由は何か。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 明確な要因は分析できていないが、実施時期が遅かったことは要因の1つと考えられる。本事業は20年度から3カ年の計画で実施しており、今年度が最終年度であるため、来年度以降の施策の方向性等の観点から本調査研究内容の見直し等を行ったため、入札等の実施時期が遅れた。</li> <li>・ 他の4者も落札者と同様の業種の会社と認識している。落札者も含め、入札説明会では特段、意見もなかったため、他の4者が応札しなかった理由は把握していない。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学校施設整備指針に沿った事例集の作成には、建築的な側面に加え、教育的な側面からの専門的な知見が必要であるため1者応札となったと考える。</li> <li>・ 委員個人では基礎点を満たしていないが、可否については技術審査委員会で議論していただき、不合格にはしないことを決定した。</li> </ul>

・その結論に至ったということが確認できる書類はあるのか。

・技術審査委員会で最終的に決定されるというルールであれば、議論した結果、必須要件を満たしているということが確認できる資料が必要。  
(意見)

**③ 青少年を取り巻く有害環境対策の推進（地域の実情に応じた有害情報対策事業）「情報教育に関する問題意識普及啓発事業」【随意契約方式（企画競争）】（スポーツ・青少年局）**

・公募要領における「事業規模及び採択数」で示した金額及び件数（500万円程度×5件）と採択結果（1,400万円程度×1件）が大きく乖離しているのはなぜか。

・本件の場合、例えば、事業規模の総額を示し、その範囲内で何件程度採択予定という表記をしていなければ、競争に参画してくる業者に対し、誤解を与え、公平性が担保されないのではないか。（意見）

**【総括】**

・個別に検討を要するものはあるが、全体として特に問題なく処理されている。

※東北地方太平洋沖地震が発生し、委員長の判断により、本委員会は予定時間を繰上げ終了となった。

・仕様書の「入札者に求める要求要件」において、要求要件を満たしているか否かの判断及び提案内容の評価等については、技術審査委員会において行うこととしている。そこで審査した結果を確認できる書類はあるが、今手元がない。

・公募要領で示した金額は予算上の目安であり、提案内容を評価して決定した。（本件は1者応募であるが）仮に5者程度応募した場合は、予算の範囲内で、提案内容の評価が高い方から採択する。

・来年度の公募の際は、より分かり易い表記で実施したい。

（ 以 上 ）